



6月19日 朝山地区防災研修会

梅雨時期の豪雨に備えて、防災研修会を開催しました。当日は、市民団体「いずもTogether(トゥギャザー)」の野津さんを講師に招き、災害時の動きや平常時の準備(避難先の家族での確認・非常持出袋点検)について学んだほか、誰にでも簡単にできる防災グッズ(コップ・スリッパ)を作成しました。

簡単にできる コップ、スリッパ

ふるさと朝山で見られる動植物シリーズ⑦

アキグミ



「アキグミ」といってもピンとこないと思いますが、写真を見ていただければこれなら知っているといわれる方も多いのではないのでしょうか。高齢者年代のみなさんの中には、学校の帰り道などでこの実をとって食べた経験をお持ちの方も少なくないと思います。

朝山地区では、この実を「あさいど」などと呼んでいました。日当たりのよい原野や道ばた、河原などに生えており、通学路脇などに生えていたものを寄り道しておやつ代わりについばんだものです。

10~11月頃赤く熟し、実の表面には白っぽい斑点があります。これは、赤褐色や白色の鱗状の短い毛のかたまりがあるためで、写真のように白い斑点があるように見えます。実はタンニンを含んでいるため渋みもありますが、よく熟した赤い実は独特のうまみがありますので、口にしてみてはいかがでしょうか。

馬木町 佐藤仁志

▲アキグミの実

朝山地区の動き・お知らせ

9月13日 朝山にっこり食堂 開店



6月から「子ども食堂」が始まりました。「朝山にっこり食堂」といいます。子育て応援やフードロス削減、食の応援団として活動しています。新型コロナウイルス対策のため、テイクアウトのみですが、どなたでもご利用いただけます。

場 所：朝山コミュニティセンター
開 催 日：朝山コミュセンにお問い合わせください
連 絡 先：090-5150-9743(馬木町 石橋)
料 金 等：大人 200 円、子供 100 円(要予約)
受渡時間：17 時～19 時頃



みなみ小・朝山幼稚園 なかよし運動会

10月1日 日差しが強くとも暑い1日でしたが、校庭には子どもたちの声が響き渡っていました。



出雲市社会福祉協議会 会長表彰	(民生児童委員功労)	渡部文子様
出雲市高齢者クラブ連合会 会長表彰	飯塚 清様	伊藤義巳様
(個人)	吉田勇治様	
(団体)	朝山町慶人会	
(サークル)	長寿の会	
体操クラブ	この指とまれ	



文化祭 中止のお知らせ

朝山地区文化祭は、新型コロナウイルスの拡大防止のため、開催を中止することになりました。来年度は、賑やかに開催できるよう願っています。(朝山地区文化祭実行委員会)

朝山コミュニティセンター 職員募集

採用職種：マネジャー 1名
応募方法：履歴書をコミュセンに提出してください
応募締切：11月16日(水) 午後5時
詳細は、今月配布の募集要項をご覧ください

米づくり体験学習

ふれあい支援部事業

今年度は、みなみ小5年生13人と朝山幼稚園児13人が、米づくりに挑戦しました。



「ばば曳き」にも挑戦しました。



田んぼの生き物調査は、雨天のため教室での学習となりました。



案山子3体が「ここにこたんぼ」を守りました。(案山子は園児が作りました)



200本の「より」が出来あがりました。



バインダー初体験

「コシヒカリ」の収穫!

大豊作!

今年度の米づくりは天候にも恵まれ、収穫量が昨年より20kg多い157kgもありました。収穫米の一部を「支援米」として被災地の「宮城県」と「静岡県」に送ります。また、出雲大社の献穀祭にも献穀します。



脱穀機にも挑戦しました。



ふるさと再発見シリーズ③

雲井瀧・朝山神社・朝山郷

昨年の暮れに、日日新聞から「わが地域で残したいもの・伝えたいもの」をシリーズ化したいので、地域の方に執筆をお願いしたいと依頼があり、朝山神社についての執筆をある氏子さんに相談したところ、松尾宮司に執筆してもらうこととなりました。松尾宮司と日日新聞のご厚意により、6月28日と7月5日の2回にわたり日日新聞に掲載された記事を、今回と次回の2回に分けてこのシリーズに掲載することしました。

また、これを契機に、松尾宮司に文化講演会の講師をお願いしたところ、快くお引き受けいただいたので、その状況についても報告いたします。

注) 松尾宮司は、代々 多伎神社の宮司をしておられます

雲井瀧と朝山郷の女神(上)

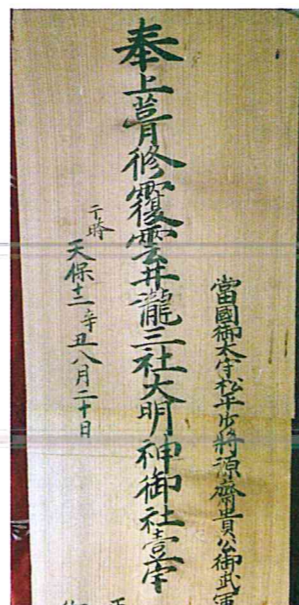
島根県内随一の落差を誇る名瀑「雲井瀧(ういだき)」をご存知でしょうか。この瀧は朝山森林公園(出雲市朝山町)がある宇比多伎山の峰に発し、切り立った急峻な岩肌を滑るように流れ落ちて、最終的には神戸川に注いでいます。まとまった雨が続き後は、朝山郵便局付近の神戸川土手から東方を見上げると、山の頂から白い糸を引くように流れる瀧の口部分を望むことができます。その落差は100mとも120mとも言われ全国トップ10に迫る規模なのですが、深い自然樹林に覆われているために瀧全体を見るビューポイントがなく、残念ながらあまり知名度は高くありません。知る人ぞ知る、島根県下最大の瀧と言えるでしょう。

この雲井瀧の最高所、水が落ち始める瀧口に鎮座するのが、朝山地域の氏神である朝山神社です。今では地元でもあまり意識をされていませんが、歴史的に見ると、実は神社と瀧は切っても切れない深い関係で結ばれています。これを端的に示すのが江戸時代の天和3(1683)年に書かれた「出雲風土記抄」で、ここでは「朝山神社」とは呼ばず、かわりに「宇比瀧大明神 真玉着玉之邑日女命と大穴持命の社を合わせ祀る」と記されています。また神社本殿に収められた天保12(1841)年の棟札にも、「雲井瀧三社大明神」と書かれています(写真)。つまり「朝山神社」という社名は明治時代に「奈良時代の呼び名に戻そう」ということで改称された結果であっ

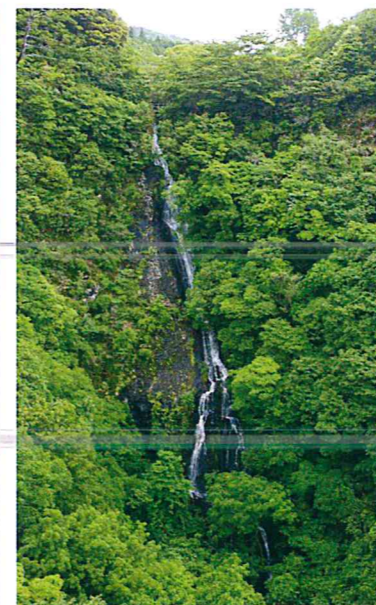
て、戦国から江戸時代を通じて「うひたき大明神」が神社の正式名称であった、ということになります。私たちは普段、本殿の中に鎮まっておられる祭神に向かって手を合わせていますが、この名が示しているように、雲井瀧=尊い大明神であり、瀧そのものが信仰の対象でした。このことから、「本来、朝山神社は雲井瀧を祭る神社であった」と言っても良いでしょう。

このような、「雲井瀧」に対する原信仰は、氏神を祭る朝山神社の境内が整備されるにしたがって神社とは別の存在へと独立して行きます。明治18(1885)年に島根県令で提出された「神門郡上朝山村 村誌」を見ますと、「雲井瀧」の傍にある「岩窟二瀧神ノ祠アリテ瀬織津姫命ヲ祀ル」と記されています。このことから明治時代には、瀧を神格化した信仰対象は「セオリツヒメ」に変化していることがわかります。ちなみにこの女神は流れの早い川に坐す神、あらゆる罪・穢(けが)れを押し流して清める働きをもつ神で、特に朝山の地とゆかりがある訳ではありません。本来の「雲井瀧」の神は、朝山神社の主祭神となっている真玉着玉之邑日女命であったとみるべきでしょう。次回は、この女神の神格について考えてみたいと思います。

朝山神社宮司 島根県古代文化センター 専門研究員 松尾充晶



朝山神社に伝わる棟札



雲井瀧(ドローンで撮影)

文化講演会

(8月7日(日) 南部ふるさとセンター)

「知らないことを聴けて良かった」、「地域の歴史・文化を誇りに感じた」などの感想が寄せられました。



講師：朝山神社宮司 松尾充晶氏 (島根県古代文化センター 専門研究員)